2022 年度　研究旅行奨励制度　報告書

香椎宮を訪れた天皇の遣い「勅使」について
全国の勅祭社と比較して

24AR136　吉原凜

はじめに
・研究旅行の目的
・期待される成果
・研究旅行日程

1.　香椎宮と勅使
・香椎宮の創建
・香椎宮勅祭の歴史
・香椎宮勅祭の流れ

2.　調査先の概要
① 国立国会図書館
② 明治神宮：東京都渋谷区代々木神園町 1-1
③ 靖国神社：東京都千代田区九段北 3-1
④ 三重県立博物館
⑤ 伊勢神宮：三重県伊勢市宇治館 1
⑥ 春日大社：奈良県奈良市春日野町 160
⑦ 橿原神宮：奈良県橿原市久米町 934
⑧ 上賀茂神社：京都府京都市北区上賀茂本山 339
下鴨神社：京都府京都市左京区下鴨泉川町 59
⑨ 平安神宮：京都府京都市左京区岡崎西天王町 97
⑩ 近江神宮：滋賀県大津市神宮町 1-1
⑪ 石清水八幡宮：京都府八幡市八幡高坊 30

おわりに

参考文献

はじめに

研究旅行の目的

実家の近所にある香椎宮には10年に1度、天皇が派遣する使者「勅使」が参向する。『続日本書紀』によると最初に香椎宮に勅使が参向したのは天平5年（737年）で、その後伏見天皇の御代には戦乱のために中断されたが、延享1年（1744年）に再興されて以来は、60年に1度、大正1 4年（1925年）以後は10年ごとが勅使参向の年になった。香椎宮のホームページでは、これまでに勅使が参向した回数は 108 回とされている。勅使が参向したときに行われるのが勅祭で、これが行われる神社は伊勢神宮を始め、全国に17社しかないため、香椎宮は大変貴重な神社である。その事実を香椎宮について調べる中で初めて知った。そこで今回の研修旅行の目的は、勅祭が行われる神社の中で最も格式が高いとされている伊勢神宮がある三重県、全国に 17 社ある勅祭社のうち近畿地方にある 7 社の上賀茂神社、下鴨神社、平安神宮、橿原神宮、春日大社、石清水八幡宮、近江八幡宮、そして勅使発遣の儀が行われる宮内庁がある東京都を訪れることで、現地の人々にとって勅使はどのような存在で、勅祭はどのような儀式であったのか、勅使として訪れたのはどのような人々であったのかを多面的に調査し、香椎宮との共通点や相違点を見つけ出すことである。また、交通網が発展した現在は勅使の移動はもちろん楽になったはずだが、当時は相当な時間と費用を費やしたに違いない。そのような点についても、実際にそれぞれの勅祭社に足を運び調査を進めたい。そして、今後研究していきたいと考えている、江戸時代に行われた香椎宮の勅祭での黒田藩の対応や香椎の人々の対応に関して、自分なりの仮説を組み立てる一歩にすることを目的とする。

期待される成果

①実際に勅祭社の現地調査によって、文献のみでは実感できない、地理的条件などを体験することができる。
②福岡県では手に取ることのできない文献を通して、近畿地方や東京都の神社を勅使が訪れた際の現地の人々の様子を知ることができる。
③勅祭社を理解した上で、勅祭社の共通点を自分なりに考察する。

研究旅行日程

出発予定日　　2022 年 8 月 4 日 帰着予定日　　2022 年 8 月 12 日	旅行予定日数（発着日を含む） 9 日間

	滞 在 地	行動・調査内容
第 1 日目	福岡→東京	移動日
第 2 日目	東京	国立国会図書館
第 3 日目	東京	明治神宮 靖国神社
第 4 日目	東京→三重	三重県総合博物館
第 5 日目	三重	伊勢神宮
第 6 日目	奈良	春日大社 橿原神宮
第 7 日目	京都	賀茂別雷神社 下鴨神社 平安神宮
第 8 日目	滋賀	近江神宮
第 9 日目	京都→福岡	石清水八幡宮

１．　香椎宮と勅使

・香椎宮の創建

仲哀天皇が香椎宮で崩御し、神功皇后が仲哀天皇の御霊を当地で祀られたのが、香椎宮の起源で、200 年のことだとされる。約 500 年後の養老 7 年（723 年）に神功皇后の託宣があって仲哀天皇の古宮の地に香椎廟が創建された。

『香椎宮編年記』に収める「香椎廟建立縁起」には、このときの託宣の内容のなかに「天皇即位その他国家の大小を問わず香椎廟に奉幣使をたてて告げること」とあり、香椎宮が勅祭社である理由だとされている[1]。

・香椎宮勅祭の歴史

勅祭とは、勅使が参向したときに行われる祭りのことである。天皇の使いが、神前に奉献する御幣帛を捧持して参向し、神前に天皇の命令を伝える宣命を奏上する。

香椎宮勅祭が文献に最初に出てくるのは『続日本書紀』だ。そこには「使を伊勢神宮・大神社・筑紫の住吉・八幡二社『宇佐』・及び香椎宮に遣わし、幣を奉り新羅無礼の状を告げしむ」とあり、新羅の無礼を告げるものだった。これが、香椎宮への最初の勅使参向だと考えられている。この頃は参向回数に定めはなく、1 年に 2 回のときもあった[2]。

それから天平 13 年（741 年）の遷都奉告、天平 16 年（744 年）に都を平城京に復する奉告と続き、天平感宝 1 年（749 年）は孝謙天皇の即位奉告である。『香椎宮編年記』、『太宰管内志』、『続日本書紀』、『日本後紀』、『続日本後紀』、『日本文徳天皇実録』、『日本三代実録』などから、天平 13 年（741 年）から勅使参向が中断される元享 1 年（1321 年）までの間に勅使参向は 89 回行われた記録がある。このうち圧倒的に多いのが、即位の奉告を目的とする勅使参向である[3]。

元享 1 年（1321 年）に中断した香椎宮への勅使参向は延享 2 年（1745 年）に、桜町天皇の発議により復活することとなる。奉幣の目的は、桜町天皇の施政方針が最大の動機であろうが、表向きは、享保 20 年（1735 年）に皇位を継承したことの報告と甲子革令の祈願である[4]。

延享 1 年（1744 年）の甲年に再興され、文化 1 年（1804 年）の甲子の年、元治 1 年（1864）年の甲子の年と近世において 3 度行われた[5]。

---

[1] 安藤正明「香椎宮と勅祭―古代の勅祭、現代の勅祭」、『福岡地方史研究会会報』53 号、2015 年、125-126 頁参照。
[2] 安藤前掲書、126 頁参照。
[3] 安藤前掲書、127 頁参照。
[4] 能美安男「文化革令香椎使の費用支出」『福岡県地域史研究』13 号、1995 年、55 頁。
[5] 高埜利彦「近世奉幣使考」『歴史学研究』500 号、1982 年、72-75 頁。

・近年の香椎宮勅祭の流れ

10 月 6 日に大分県の宇佐神宮で奉幣を終えた勅使は、10 月 8 日に福岡入りをする。まずは香椎宮神職が勅使の掌典、随員の掌典補及び出仕の 3 名が宿泊するホテルにお迎えに行く。自動車で移動し、香椎宮の「皇族下乗」の石碑の手前で降りる。香椎宮に到着するのはだいたい 15 時前後で、境内を内検し、お手植えと呼ばれる記念植樹をする。そして、勅使館に入る。

平成 17 年（2005 年）の「香椎宮臨時奉幣祭祭式次第」は以下のような流れとなっている。

当日　早旦社殿を装飾す
時刻　宮司以下祭員参列諸員参集
次　　宮司以下所定の座に著く　是より先　手水及び修祓の儀あり
次　　勅使御幣物を奉じて参進　是より先　手水の儀あり
次　　修祓
次　　勅使所定の座に就く
次　　御幣物辛櫃を便宜の所に置く
次　　宮司御扉を開き畢りて側に候す
次　　禰宜以下神饌を供す
次　　宮司祝詞を奏す
次　　勅使随員御幣物を宮司に進む
次　　宮司御幣物を奉る
次　　勅使御祭文を奏す
次　　宮司御祭文を受け之を神前に納め畢りて勅使に反命す
次　　勅使本座に復す
次　　獅子楽を奏す
次　　勅使玉串を奉りて拝礼
次　　宮司玉串を奉りて拝礼
次　　参列員玉串を奉りて拝礼
次　　宮司御幣物を徹す
次　　禰宜以下神饌を徹す
次　　宮司御扉を閉じ畢りて本座に此の間奏楽
次　　各退出[6]

[6] 安藤前掲書、134-135 頁参照。

２．　調査先の概要

① 国立国会図書館

国内で出版されたほぼ全ての出版物を所蔵する、国会に属する唯一の国立の図書館である。

ここでは勅使に関する本や香椎宮に関する雑誌を調査した。今回閲覧したのは以下の 3 点である。これらは複写し、持ち帰ることができた。

・安藤正明「香椎宮と勅祭―古代の勅祭、現代の勅祭」『福岡地方史研究会会報』53 号、2015 年、125-138 頁。
・川瀬一馬『伊勢公卿勅使神宝絵図 解説』阪本竜門文庫、1968 年
・吉川竜実　芝本行亮『皇學館大学神道研究所紀要―享和公卿勅使見聞録』、皇學館大学神道研究所、2010 年

図 1：国立国会図書館看板
撮影者：吉原凜

② 明治神宮

東京都渋谷区代々木神園町 1-1 にある、第 122 代天皇の明治天皇と昭憲皇太后を御祭神としている神社である。創建は大正 9 年（1920 年）11 月 1 日で、初詣では例年日本一の参拝者となっている。

明治神宮では秋の大祭が 11 月 1 日から 3 日に行われる。文化の日である 3 日は明治天皇の御誕生日にあたり、勅使が参向される。

昭和 20 年（1945 年）12 月 10 日に GHQ は、日本政府に「国家神道・神社神道に対する政府の保証・支援・保全・監督ならびに弘布の廃止に関する件」いわゆる「神道指令」を発した。昭和 25 年（1950 年）に皇室と神社との疎遠が憂慮されていた当時、勅祭社には、皇室から戦前と同様、例祭にあたり勅使が派遣され、幣帛が奉奠されていた。それ故に、勅祭社である熱田神宮宮司長長谷外余男は、天皇陛下に御礼を言うために、当時掌典長の甘露寺受長、後の第 6 代明治神宮宮司に相談を持ちかけた。そうして甘露寺受長の便宜によって同年の 5 月 5 日に、天皇陛下への拝謁が叶った。天皇陛下の励ましのお言葉に一同は感激したという。翌年の昭和 26 年（1951 年）、勅祭社宮司らは、再び天皇陛下が拝謁した後、永田町の料亭で拝謁の便宜を図ってくれた掌典長以下宮内省関係者を招いて

返礼したという。これが勅祭社宮司会の起こりである[7]。

図 2：明治神宮の鳥居
撮影者：吉原凜

図 3：靖国神社の大鳥居
撮影者：吉原凜

③ 靖国神社

東京都千代田区九段北 3-1 にある神社である。靖国神社の起源は、明治 2 年（1869 年）6 月 29 日に建てられた招魂社に遡る。当時の日本は、明治維新の過程にあり、国内に避けることのできない不幸な戦いを生み、近代国家建設のために尽力した多くの同志の尊い命が失われた。そこで明治天皇は、国家のために命を捧げてきた人々の霊を慰め、その実績を後世に伝えようと、招魂社を創建された。招魂社はその後、明治 12 年（1879 年）6 月 4 日に「靖国神社」と改称された。

靖国神社では春秋の年に 2 回例大祭が催され、勅使が参向される。春季例大祭は 4 月 21 日から 23 日に、秋季例大祭は 10 月 17 日から 20 日に毎年行われる。祭りは、清祓・当日祭・第二日祭・直会という流れで行われる。清祓では、神職はもちろん祭儀に用いる諸具一式が祓い清められる。当日祭では、神饌をお供えして神霊をお慰めし、この日に勅使が参向され、御幣物が献じられ、御祭文が奏上される。勅使が参向される時間は春季では 4 月 22 日の午前 10 時 30 分、秋季では 10 月 18 日の午前 10 時 30 分とのことだった。

④ 三重県総合博物館(MieMu)

[7]「明治神宮　データベース」(meijijingu.or.jp)

三重県津市にある三重の自然と歴史・文化に関する資料を収蔵している博物館である。博物館 2 階にある資料閲覧室にて、事前に閲覧予約していた『嘉暦三年公卿勅使記』を閲覧した。『嘉暦三年九月十日公卿勅使御参向日記』と『正応六年公卿勅使御参向次第』の合本である。これは写真に撮り、持ち帰ることができた。現在解読中であるが、鎌倉時代の公卿勅使参向記録であり、神宮側の神官らの役割分担等が記録されているようだ。

⑤ 伊勢神宮

三重県伊勢市宇治館 1 にある神社である。「お伊勢さん」と親しまれている伊勢神宮は 2000 年の歴史を有し、皇室の御祖神をお祭りする神社として、また日本人の総氏神的な存在として全国から深い崇敬を集める神社である。正式名称は「神宮」で、宇治の五十鈴の川上にある皇大神宮「内宮」と、山田原にある豊受大神宮「外宮」の両大神宮を中心として、14 所の別宮、43 所の摂社、24 所の末社、42 所の所管社がある。「神宮」はこれらの合計 125 の宮社の総称である。外宮と内宮はバスでの移動が必要なほど離れていた。今回私が訪れた神社の中でも圧倒的に参拝者が多かった。外国人観光客も多く、世界的に人気の神社であることが改めて分かった。

伊勢神宮の恒例祭のうち、勅使が参向するのは祈年祭、神嘗祭、新嘗祭の 3 回である。内宮の御正殿の御扉は勅使が参向したときにのみ開く[8]。神嘗祭は 1 年で最も重い祭りとされる。神嘗祭に合わせて神恩感謝の品が調理される。その数は 30 にも及ぶと言われており、調理されたものがどのように神前に供えられるかは神職にしか分からないということだ。

図 4 ：伊勢神宮内宮　正宮
撮影者：吉原凜

⑥ 春日大社

近鉄奈良駅から奈良公園を通って 30 分ほど歩いた、奈良県奈良市春日野町 160 にある神社である。神山である御蓋山の麓に、神護景雲 2 年（768 年）称徳天皇の勅命によって武甕槌命様、経津主命様、天児屋根命様、比売神様の御本殿が造営された。現在、国家や国民の平和と繁栄を祈る祭りが年間で 2200 回以上行われている。

その祭りの中でも 1200 年以上続くのが毎年 3 月 13 日に行われる「春日祭」である。勅使が参向され、国家や国民の安泰を祈る御祭文が奏上される。この祭りの起源は社伝では第 55 代文徳天皇の嘉祥 3 年（850 年）と言われているが、嘉祥 2 年（849 年）にすでに執

[8] 南里空海『決定版　伊勢の神宮』世界文化社、2014 年、85-92 頁参照。

行されているため、それ以前にも奉仕されている史実がある[9]。神主さんも「他の勅祭社よりも歴史が長いため、一般の方に話せることは少ない」とおっしゃっていた。明治政府によって神祇制度で全て組み替えられた影響で、勅使が来ていたというお社は集約されてしまっているので、どこの時代で切り取るかが研究の鍵ではないかという助言を頂いた。

⑦ 橿原神宮

奈良県橿原市久米町 934 にある神社である。年間を通して行われる祭典のうち、最も重要なお祭りは例祭の「紀元祭」である。毎年 2 月 11 日の建国記念日に勅使が参向され行われる。御祭神の神武天皇が橿原宮で即位された古を偲び、国民的祭典として全国から寄せられる奉賛と、約 4000 人に及ぶ参列者によって年々盛大に執り行われているとのことだ。

外拝殿を通り過ぎたところに「遠つ世の　風ひそかにも　聴くごとく　樫の葉そよぐ参道を行く」という歌碑があった。平成 28 年（2016 年）4 月 3 日の神武天皇二千六百年祭にあたり、当時の天皇皇后両陛下であり、現在の上皇ご夫妻が橿原神宮に御参拝されたときに、美智子皇后陛下がお詠みになった歌である。

権禰宜の西田さんと青木さんに話を伺うことができ、普段は立ち入ることのできない勅使館の見学もさせていただいた。また、勅使へのもてなし方法を知ることができた。

道具は勅使用で、勅使が参向される「紀元祭」でのみ使用される。

まず、折敷と呼ばれるものにおしぼりを載せ、おしぼりをお出しする。高坏と呼ばれる台は、漆でできており、蒔絵があるものを使用する 。

高坏にお菓子を載せて出し、それからお茶を出す。勅使へのお茶は、左のような貴人用の高さのある茶托を使用し、随員と出仕には、右のような勅使に出すものよりも高さが低めの茶托を使用する。

羊羹を出した後に、抹茶茶碗でお抹茶を立てて出す。

その後、お口直しにもう 1 度緑茶を出す。その際は高坏ではなく、普通の湯飲みで出す。

それが終わると、勅使が祭場の確認に行くので、戻ってきたら羊羹とお抹茶で接待するという流れである。これらは勅使館で行われ、接待は女性が行う。

⑧ 賀茂別雷神社「上賀茂神社」　賀茂御祖神社「下鴨神社」

「上賀茂神社」は、京都府京都市北区上賀茂本山 339 にある神社である。御祭神は賀茂別雷大神で、この神は神代の昔、本殿の後方 2 キロメートルにある秀峰である神山の頂上にある磐座にご降臨になったのが起源とされ、天武天皇の 678 年に神山を拝む形で現在の本殿の基となる建物が建てられた。

---

[9] 春日大社　パンフレットより。

「下鴨神社」は、京都京都市左京区下鴨泉川町 59 にある神社である。社伝によると、桓武天皇の御代に比叡山西麓の御蔭山に賀茂建角身命が降臨したのが起源とされている。

賀茂社、すなわち上賀茂別雷神社と下鴨神社の祭典として行われる「賀茂祭」である。毎年 5 月 15 日に勅使が参向され行われる。社殿に葵を飾り、祭りの奉仕者が葵を身に着けることから「葵祭」と呼ばれ広く親しまれている。昔は「あふひ」と書き「あふ」は「会う」、「ひ」は神様の力を示す言葉であり、大きな力に巡りあうという意味を植物の葵で示していると伝えられていると社務所の方がおっしゃっていた。平安期より王美朝を極める祭事として知られている。「賀茂祭」は嵯峨天皇が伊勢の祭祀に準ずべしとの勅を出し、伊勢神宮以外では唯一「斎王制度」を有している祭礼に相応しく、皇城鎮護の勅祭として盛大かつ典型的な行装と儀式であった。このことから、平安期の貴族間では、「まつり」と言えば「賀茂祭」を指すほどの存在であったとされる。今日でも斎王の代わりを設け、古式に則った儀礼を維持継承している[10]。

図 5 から分かるように、当日は午前 10 時 30 分に京都御所を出発し、下鴨神社での祭儀「社頭の儀」を行った後、再び服装を整えて加茂街道を北上し、午後 3 時 30 分頃に賀茂別雷神社に到着する。この行列は、勅使だけでなく、検非違使、内蔵使、山城使、牛車、風流傘、斎王代など、平安期の貴族姿で列を作り出発する。総勢で約 500 名、馬 36 頭、牛 4 頭、牛車 2 台、輿 1 台の行列は 700 から 800 メートルもの長さになる[11]。

図 5 ：賀茂祭行列　巡行順路：時間予定
「上賀茂神社ホームページ」より

⑨ 平安神宮

京都府京都市左京区岡崎西天王町 97 にある神社である。御祭神は、平安京を造った第 50 代桓武天皇と明治維新の基を開いた第 121 代孝明天皇である。平安京が造られて 1100 年にあたる明治 28 年（1895 年）に、京都市民はこの記念すべき年に桓武天皇を偲び、京都の祖神として祀ろうと、平安京の正庁である朝堂院の様式を模して、同年 3 月 15 日に創建した。また、昭和 15 年（1940 年）に孝明天皇が合祀された。

---

[10] 大森正夫『京都、しつらいの空間美―――祭事に解く文化遺産』鹿島出版会、2013 年、106 頁。

[11] 大森前掲書、109-110 頁。

平安神宮の年中行事のなかで最も重要な祭儀が毎年 4 月 15 日に行われる例祭である[12]。

⑩ 近江神宮

滋賀県大津市神宮町 1-1 にある神社である。近江神宮は第 38 代天智天皇をお祀りし、天智天皇の古都である近江大津京宮跡に鎮座している。昭和 15 年（1940 年）に鎮座した新しい神社である。歌かるたの祖神としても仰がれていて、映画「ちはやふる」の舞台にもなり注目を集めた神社だ。カルタをモチーフにした商品が販売されていたり、実際に撮影で使った部屋を開放したりしていた。勅祭社のなかで最も新しい。毎年 4 月 20 日の例祭が行われる。

権宮司の河毛さんによると、近江神宮は、大正の時代に、住民らの天智天皇の実績を称えようとする思いから発展していき、滋賀県民だけでなく全国民の国家プロジェクトという形で建設造営が計画されたそうだ。また、昭和天皇は御祭神が先祖として深く関わっていることから、重きを置いていた。昭和 20 年（1945）年 12 月 15 日の午後に GHQ に発せられた「神道指令」だが、昭和天皇はその日の午前中に近江神宮を勅祭社にしたとのことであった。

⑪ 石清水八幡宮

京都府八幡氏八幡高坊 30 にある、京阪の石清水八幡宮駅からケーブルカーで 3 分の場所にある神社である。

年間で 100 余り行われる祭典のうち、最も重要なのは勅祭の「石清水祭」である。この祭りは、葵祭の名で親しまれる加茂祭・春日祭とともに旧儀式による日本三大勅祭のひとつに数えられている[13]。かつては旧暦の 8 月 15 日に行われていたが、明治 17 年（1884 年）より新暦の 9 月 15 日に行われている。石清水八幡宮の社務所で石清水祭の式次第をいただいた。石清水祭は他の勅祭の次第と異なり、分単位で予定が決まっていることが分かった。毎年同じように祭典が執り行われており、9 月 15 日は午前 2 時から午後 6 時 30 分まで祭りが行われる。

---

[12] 平安神宮　パンフレットより。

[13] 大森前掲書、106 頁。

おわりに

今回は東京・三重・奈良・京都を訪れて勅使や勅祭社についての調査を行った。勅使は毎年決まった日時でそれぞれの勅祭社に参向される。今となっては交通網が発達し、東京から勅使が参向するのは楽になったが、かつては江戸から何日もかけてやってきて、参向されたのだということを辿り着く過程において、身をもって感じた。これまで調べた文献には載っていなかった勅使へのもてなしや、勅祭で感じることなどの話を、神主さん等にお伺いすることができた。

例祭が始まった時代が神社それぞれで異なるため、今回の旅行で巡った 10 社をそれぞれ比較することは大変難しい。これからは、国立国会図書館で複写した資料や三重県立博物館で収集した文献を大いに活用して、香椎宮を中心に、勅祭社についての研究を深めていく。

参考文献

高埜利彦「近世奉幣使考」『歴史学研究』500 号、1982 年、61-70 頁
所功『京都の三大祭』角川学芸出版、1996 年
大森正夫『京都、しつらいの空間美―祭事に解く文化遺産』鹿島出版会、2013 年
南里空海『決定版　伊勢の神宮』世界文化社、2014 年
安藤正明「香椎宮と勅祭―古代の勅祭、現代の勅祭」『福岡地方史研究会会報』53 号、2015 年、125-138 頁

「香椎宮」(kashiigu.com)
「春日大社」(kasugataisha.or.jp)
「平安神宮」(heianjingu.or.jp)
「上賀茂神社」(kamigamojinja.jp)
「明治神宮」(meijijingu.or.jp)